

今だからこそ、伝えることに意義がある。

～日韓交流スピーチ大会出場奮闘記～

ソウル事務所

1 スピーチ大会を目指したきっかけ

今年度で 8 回目となる日韓交流スピーチ大会。韓国語を習い始めて 2 年半余り、そのうち 1 年半以上は韓国で生活し、韓国語にも慣れてきたので、それを活かして何かに挑戦しよう、ということで、この大会への出場を目指すこととしました。

2 本大会までの道のり

まずは書類審査ですが、我が子の韓国生活を題材に原稿を作成しました。1,000 字程度なら、と簡単に考えていたものの、日本語は分かって韓国語の適当な表現が分からず、試行錯誤の連続でした。2 週間程度で原稿を完成させて提出し、通過できるよう祈りながら結果を待ちました。約 1 週間後に書類審査通過の連絡を受けた時は、嬉しさと同時に、まさか本当に通過するとはという驚きを覚えました。

3 緊張の本大会

2012 年 11 月 24 日(土)、本大会の日。司会者に名前を呼ばれ舞台上に立った瞬間、緊張が最高潮に達しました。スピーチでは、娘が、時間が経つにつれて韓国生活に溶け込み、いつの間にか韓国語で挨拶や会話ができるようになった経験から、幼い頃の海外経験が国際感覚を養うのに役立つことを伝えました。3 分間はあっという間でしたが、伝えたい内容をすべて話すことができました。



スピーチの様子

4 新たな交流が芽生えた交流会

大会の後には出場者の交流会が開催され、出場者同士がスピーチに関するエピソードなどを語りながら楽しい時間を過ごしました。同じテーブルで親しくなった韓国人の出場者とは連絡先を交換し、今でもやり取りを続けており、新たな交流の機会となりました。

5 今だからこそ意義があるスピーチ大会

出場者のスピーチや交流会での会話を通して、両国の参加者に共通したメッセージ、それは、日本と韓国が深い絆で結ばれることを願う、ということでした。日韓関係が何かと取りざたされる今だからこそ、この大会を開催する意義があると、改めて感じました。

(松崎所長補佐 愛媛県松山市派遣)